

平成 22 年 5 月 26 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007 年度～2009 年度

課題番号：19390562

研究課題名（和文） 避妊・STD 予防カウンセリングの開発と

ウェブを用いたサポートシステムの構築

研究課題名（英文） Development of a Training Program for Counsellors in  
Contraception and the Prevention of STIs and a Website-based Support System

研究代表者 成田 伸 (NARITA SHIN)

自治医科大学・看護学部・教授

研究者番号：20237605

研究成果の概要（和文）：望まない妊娠や性感染症罹患の予防を専門的に支援する避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムを構築した。プログラムは 6 日間の集合教育と専用のウェブサイトを活用した自己学習からなり、2008 年度と 2009 年度の 2 回にわたって助産師を対象に開催した。育成プログラムの成果を評価するために、受講者と非受講の比較群で学習成果を比較した結果、受講者に知識の増加や態度の変容がみられた。また受講者のカウンセリング能力が向上した。今後は、育成されたカウンセラーの実践自体を評価する研究が必要である。

研究成果の概要（英文）：To prevent unintended pregnancy and sexually transmitted infections(STIs), we developed the program for training counsellors in contraception and prevention STIs and a system using a website to support the program for training. Then we evaluated that program. The program was held at 2008 and 2009, and we got positively results. In the future, we should evaluate the practices of those counsellors.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2008 年度	6,000,000	1,800,000	7,800,000
2009 年度	3,100,000	930,000	4,030,000
年度			
年度			
総計	13,600,000	4,080,000	17,680,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：避妊・性感染症予防カウンセリング、育成プログラム、サポートシステム、e-ラーニング

## 1. 研究開始当初の背景

若年世代の妊娠・妊娠中絶や性感染症罹患が増加し、避妊・性感染症予防への取り組みは緊急の課題である。母体保護法に受胎調節実地指導員が規定され、助産師を中心に育成されているが、活動は不活発であり、この問題の解決に役立っているとはいえない。受胎調節実地指導員よりもさらに専門性を高めた、望まない妊娠や性感染症罹患の予防を専門的に支援する避妊・性感染症予防カウンセ

ラーの育成が急務である。

## 2. 研究の目的

避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムとその育成をサポートするウェブサイトサポートシステムを構築し、その評価を行うこと。

## 3. 研究の方法

(1) 文献と海外の実践例から避妊・性感染

症予防を支援するプロセスを避妊・性感染症予防カウンセリングとして構築する、(2) 避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムと育成中の学習と育成後の実践をサポートするウェブサイトのシステムを開発する、(3) 開発したカウンセラー育成プログラムを実施する、(4) 受講の効果を評価する。育成プログラム受講という成果を評価するために、育成プログラム受講者と受講しない比較群を募集する。比較群は2008年度には事前事後調査のみに参加し、2009年度には育成プログラムで使用した学習教材を用いての自己学習を行い、事前事後調査に参加し、比較する。(1)の検討結果より、育成プログラムでは、「低用量ピルを含む近代的避妊法と性感染症予防支援に関する知識の獲得」「カウンセリングを取り込んだ避妊・性感染症予防支援の技能の獲得」「支援者自身の避妊・性感染症予防に対する態度の変容」の獲得を目指すことになり、「低用量ピルを含む近代的避妊法と性感染症予防支援に関する知識の獲得」状況は《避妊・性感染症予防支援に関連する知識調査》を用いて、「支援者自身の避妊・性感染症予防に対する態度の変容」状況は《支援者自身のピルに対する態度》、《避妊・性感染症予防に関するケアに対する態度》について、また《コンドーム使用に対する態度の変化》を野々山らが開発したコンドーム使用セルフエフィカシースケールを用いて評価することになった。また、2009年度においては、「カウンセリングを取り込んだ避妊・性感染症予防支援の技能の獲得」状況を評価するために、受講者に対して、育成プログラム開始前と終了後にカウンセリング・ロールプレイを実施し、その前後の評価を試みた。

研究参加者の募集は助産師教育を行っている看護系大学の助産師教育の責任者を通じて行い、研究参加について同意した対象者のみ研究者にその旨連絡するように配慮した。2008年度調査の実施については、山梨大学医学部倫理委員会において患者対象でないため倫理委員会の非該当との報告を得た(平成20年7月9日付、承認番号466)。2009年度調査の実施については、自治医科大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得た(平成21年5月25日付;第疫09-02号)。

#### 4. 研究成果

(1) 本研究においては、欧米で多く用いられている避妊カウンセリングという用語を取り入れ、「避妊・性感染症予防カウンセリング」を定義した。また、文献、UKスコットランドのNHS担当者からスコットランドにおける看護師処方とスコットランド住民のITを用いた健康管理システムとしてのeHealthに関する視察、USAのWomen's

Health Nurse Practitionerの育成プログラム、日本の受胎調節実地指導員の育成状況などについて研究者間で討議した上で統合し、避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムを開発した。

(2) 育成プログラムは、「低用量ピルを含む近代的避妊法と性感染症予防支援に関する知識の獲得」「カウンセリングを取り込んだ避妊・性感染症予防支援の技能の獲得」「支援者自身の避妊・性感染症予防に対する態度の変容」の3つの能力の獲得を目指して開発し、講義科目「低用量ピルの使用の基礎と臨床薬理学」「近代的避妊法と性感染症予防法」2科目(各1単位15時間)と演習科目「避妊・性感染症予防カウンセリング」1科目(2単位30時間)の計3科目(3単位60時間)から構成した。また育成中の学習と育成後の実践をサポートするためのシステムとしてホームページを開設した。実際の時間配分は、講義資料やモデル類を用いた演習を含む集合教育6日間(36時間)と、受講生専用のウェブサイトを活用した自己学習で学ぶものとした。

(3) 2008年度と2009年度の2回にわたって助産師を対象に育成プログラムを開催した。育成プログラムには2008年度は22名、2009年度には23名の受講生が参加した。

(4) 育成プログラムの成果を評価するために、育成プログラムを受講しない比較群を募集した。比較群は2008年度12名の参加があり、事前事後調査のみに参加した。2009年度は11名の参加があり、育成プログラムで使用した学習教材を用いての自己学習を行ってもらい、事前事後調査に参加した。

「低用量ピルを含む近代的避妊法と性感染症予防支援に関する知識の獲得」状況について介入群と比較群を比較した結果では、2008年度、2009年度とも、介入群のほうが比較群よりも高い知識を獲得しており、育成プログラムでの学習効果はあったといえる。一方で、2008年度調査においては、比較群に対して学習の積極的な働きかけを行っていなかったが、2009年度調査では比較群にも介入群が育成プログラムで使用したのと同じ教材を自己学習用に提供している点が異なっている。その結果として、2008年度調査では、比較群において事前調査と事後調査を比較して、これらの知識の向上は認められなかったが、2009年度調査の比較群においては、介入群ほど高い正答数ではないものの、有意に向上することが認められた。これは、知識の獲得が適切な資料に基づいて行われれば、必ずしも集合教育でなされる必要がないことの証明といえる。

「支援者自身の避妊・性感染症予防に対する態度の変容」状況については、ある程度の肯定的な変化はみられたが、大きなものでは

なかった。すなわち育成プログラムという介入が、受講者の支援者自身の避妊・性感染症予防に対する態度を明確に変容させたとは言い難い結果といえる。態度の変容は、元来非常に時間のかかるものであり、演習を行ったり、自身のジェンダーやセクシュアリティを問い直す課題を課したりするなどの工夫は行ったものの、さらに工夫が必要なところといえる。

「カウンセリングを取り込んだ避妊・性感染症予防支援の技能の獲得」状況について、2009年度に実施した開始前と終了後の模擬クライアントを対象としたカウンセリングのロールプレイについて、受講者による自己評価、研究メンバーによる他者評価、模擬クライアントによる当事者評価を実施した。開始前と終了後の評価を比較すると、他者評価や当事者評価ではほとんどの項目で評価は有意に向上し、自己評価においてもある程度の項目は有意に向上しており、この結果から、育成プログラムにおける避妊・性感染症予防支援の技能の獲得は概ね達成されたと考える。今回の育成プログラムでは、避妊・性感染症予防カウンセリングのイメージをつかんでもらうために自作したDVDの視聴を入れたり、リスクアセスメントの課題を課したり、複数回のロールプレイを体験し、またマイクロティーチングとして振り返ったり、とカウンセリングの能力獲得に向けて工夫を重ねてきた。しかし、全体で2ヶ月という短期間で到達できる能力としては、今回の状況程度といえ、今後は受講生自身が臨床の中で繰り返し実践し、個々に能力を向上させていくことが必要といえる。

以上の結果から、育成プログラム受講が有効であることはほぼ確認できたといえる。今後は、教育内容や教育方法としてのeラーニングとの組み合わせなどをさらに検討し、育成プログラムの精選を重ねると共に、海外の研究にあるように、本育成プログラムを通じて育成された避妊・性感染症予防カウンセラーの実践自体を評価することを目指す必要がある。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 成田伸, 矢野美紀, 西岡啓子, 加藤優子, 森島知子, 須藤久実, 段ノ上秀雄, 水流聡子, 鈴木幸子, 工藤里香, 野々山未希子, 齋藤益子, 岡本美香子, 遠藤俊子: 避妊・性感染症予防に関するカウンセリング概念の構築と避妊・性感染症予防カウンセラー育成プログラムの開発. 自治

医科大学看護学ジャーナル, 第6巻, pp.101-112, 2009

- ② NARITA,S., TSURU,S., KUDO,R., NONOYAMA,M., DANNOUE,H., ENDO,T.: Evaluation of a Training Program for Counselors in Contraception and Prevention of STIs and a Website-based Support system. Connecting Health and Humans-Proceedings of NI2009, pp.631-635, 2009

[学会発表] (計4件)

- ① 成田伸, 水流聡子, 段ノ上秀雄, 岡本美香子, 遠藤俊子: 避妊・性感染症予防カウンセリングのアルゴリズム表記法を用いた可視化とウェブを用いたサポートシステム構築の試み. 第9回日本医療情報学会看護学術大会(東京) 2008年6月22日
- ② NARITA,S., TSURU,S., KUDO,R., NONOYAMA,M., DANNOUE,H., ENDO,T.: Evaluation of a Training Program for Counselors in Contraception and Prevention of STIs and a Website-based Support system. The 10th International Congress on Nursing Informatics(NI2009) (Helsinki) フィンランド、ヘルシンキ、2009年6月30日
- ③ 工藤里香, 野々山未希子, 鈴木幸子, 成田伸, 遠藤俊子: 避妊・性感染症予防カウンセラーの育成とその評価(その1). 第50回日本母性衛生学会学術集会(横浜)抄録集, p.122, 2009年9月27日
- ④ 野々山未希子, 工藤里香, 鈴木幸子, 成田伸, 遠藤俊子: 避妊・性感染症予防カウンセラーの育成とその評価(その2). 第50回日本母性衛生学会学術集会(横浜)抄録集, p.123, 2009年9月27日

[その他]

ホームページ等

<http://plaza.umin.ac.jp/~cspc/>

## 6. 研究組織

- (1) 研究代表者 成田伸 (NARITA SHIN)  
自治医科大学・看護学部・教授  
研究者番号: 20237605
- (2) 研究分担者 大原良子 (OHARA RYOKO)  
自治医科大学・看護学部・准教授  
研究者番号: 40325163  
鈴木幸子 (SUZUKI SACHIKO)  
埼玉県立大学・看護栄養学部・教授  
研究者番号: 30162944

遠藤俊子(ENDO TOSHIKO)  
山梨大学・医学工学総合研究部・教授  
研究者番号：00232992  
齋藤益子(SAITO MASUKO)  
東邦大学・医学部・教授  
研究者番号：30289962  
吉沢豊予子(YOSHIKAWA TOYOKO)  
東北大学・医学部・教授  
研究者番号：80281252  
野々山未希子(NONOHAMA MIKIKO)  
筑波大学・人間総合科学研究科・講師  
研究者番号：90275496  
水流聡子(TURU SATOKO)  
東京大学大学院・工学系研究科・准教授  
研究者番号：80177328  
跡上富美(ATOGAMI FUMI)  
東北大学・医学部・准教授  
研究者番号：20291578  
(H19→H20：連携研究者)  
水流聡子(TURU SATOKO)  
東京大学大学院・工学系研究科・特任教授  
研究者番号：80177328  
矢野美紀(YANO MIKI)  
自治医科大学・看護学部・講師  
研究者番号：80347624  
西岡啓子(NISHIOKA KEIKO)  
自治医科大学・看護学部・助教  
研究者番号：30458327  
加藤優子(KATO YUKO)  
自治医科大学・看護学部・助教  
研究者番号：20458326  
森島知子(MORISHIMA TOMOKO)  
自治医科大学・看護学部・助教  
研究者番号：00517849  
(H20→H21：連携研究者)  
齋藤良子(SAITO YOSHIKO)  
自治医科大学・看護学部・准教授  
研究者番号：20362767  
角川志穂(SUMIKAWA SHIHO)  
自治医科大学・看護学部・講師  
研究者番号：70325918  
矢野美紀(YANO MIKI)  
自治医科大学・看護学部・講師  
研究者番号：80347624  
西岡啓子(NISHIOKA KEIKO)  
自治医科大学・看護学部・助教  
研究者番号：30458327  
段ノ上秀雄(DANNOUE HIDEO)  
自治医科大学・看護学部・助教  
研究者番号：40555596  
水流聡子(TURU SATOKO)  
東京大学大学院・工学系研究科・特任教授  
研究者番号：80177328  
(H21→H22：連携研究者)

(3)連携研究者  
大原良子(OHARA RYOKO)  
自治医科大学看護学部・准教授  
研究者番号：40325163  
鈴木幸子(SUZUKI SACHIKO)  
埼玉県立大学・看護栄養学部・教授  
研究者番号：30162944  
工藤里香(KUDO RIKA)  
埼玉県立大学・看護栄養学部・講師  
研究者番号：80364032  
野々山未希子(NONOHAMA MIKIKO)  
東邦大学・医学部・准教授  
研究者番号：90275496  
遠藤俊子(ENDO TOSHIKO)  
山梨大学・医学工学総合研究部・教授  
研究者番号：00232992  
齋藤益子(SAITO MASUKO)  
東邦大学・医学部・教授  
研究者番号：30289962  
吉沢豊予子(YOSHIKAWA TOYOKO)  
東北大学・医学部・教授  
研究者番号：80281252  
跡上富美(ATOGAMI FUMI)  
東北大学・医学部・准教授  
研究者番号：20291578  
(H19→H20：連携研究者)  
鈴木幸子(SUZUKI SACHIKO)  
埼玉県立大学・看護栄養学部・教授  
研究者番号：30162944  
工藤里香(KUDO RIKA)  
埼玉県立大学・看護栄養学部・講師  
研究者番号：80364032  
野々山未希子(NONOHAMA MIKIKO)  
東邦大学・医学部・准教授  
研究者番号：90275496  
遠藤俊子(ENDO TOSHIKO)  
京都橘大学・看護学部・教授  
研究者番号：00232992  
(H21→H22：連携研究者)